

# 障害再発防止ノウハウの製品評価試験支援システムへの織込み

－ 技術伝承のための製品評価試験支援システムの開発（その2）－

2 R - 0 6

渡辺 英夫\*<sup>1</sup> 小松 春彦\*<sup>1</sup> 雨宮 秀文\*<sup>1</sup> 楠目 稔史\*<sup>1</sup> 三塩 剛志\*<sup>1</sup> 古枝幸一郎\*<sup>1</sup> 青木邦介\*<sup>2</sup>  
 (株)日立製作所通信事業部\*<sup>1</sup> (株)湘南サービス\*<sup>2</sup>

## 1. はじめに

開発品の評価試験は、単に出荷前の製品の品質確認だけでなく、製品の量産への移行に備えた機能・性能確認試験でもある。この試験を正確に且つ迅速に実施するには、技術的な知識と経験が重要である。この評価試験は、特定少数の経験豊富な優秀な技術者に負うところが大きく、取扱う製品の種類の増加や評価期間の短縮に対応して、従来の属人性の関わりを改め、技術情報を雛形(テンプレート)として蓄積し技術の伝承、活用を狙ったシステムである。このシステムのこれまでの課題のひとつである社内外の障害事例ノウハウ反映の検証について今回、改善を検討し、システム改善を図った。

## 2. 現状の評価試験の問題点とアプローチ

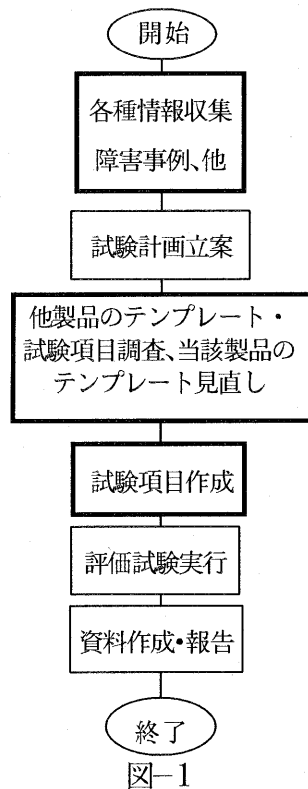


図-1

### 2.1 現状の業務

評価試験の開始から終了は左図のようになる。情報の収集、テンプレート調査、見直しには、次の問題点がある。  
 ①障害事例帳票は、発生要因、原因で分類されており評価試験のための分類定義は無い。  
 ②見直したテンプレートや作成した試験項目には、障害事例反映の識別がなく、ノウハウの織込み採否が不明。

## 2.2 基本方針

### (1) 使い方

障害事例帳票システムから容易に評価試験項目への反映案件を拾い出し、専門技術者が形式知化(テンプレート登録、更新)する。一般作業者は、このテンプレートを活用し、当該製品の評価試験項目を作成することにより技術の伝承を受ける。このとき、事例を反映した障害事例帳票の管理番号がテンプレートに盛込まれ、評価試験項目に継承されることで、障害再発防止のノウハウ織込みが明示されることとなり、検証可能となった。

### 適用範囲

新規開発の情報通信機器の評価試験業務全般

### (2) 進め方

障害事例帳票システム内の特定の事例データから事例再発防止となる評価試験反映のためのキーワードを抽出し、改善評価のための試行運用を行った。その後、事例帳票データ範囲を広げキーワードの拡充、整備を行い実運用開始とした。

## 2.3 改善テーマごとの内容と実現方法

次の様に、改善テーマの実現を試みた。

表-1

	業務区分	改善テーマ	内容	実現化方法
1	障害事例等、情報収集	反映すべきノウハウの評価試験項目への適用容易化	反映させるべき評価試験の項目分類をキーワードとして障害事例帳票に盛込む	帳票項目「再発防止評価項目」「教訓」新設
2	テンプレート見直し	ノウハウの反映漏れ防止	テンプレートの該当する評価項目の分類をキーワードとして障害事例帳票を検索しその過不足を判定	再発防止評価項目の検索と比較
3	試験項目作成	ノウハウ織込み明示化	テンプレート、試験項目に反映事例の帳票管理コードを埋め込む	帳票管理コード

